

第29回環境保全・公害防止研究発表会の概要

宮崎県衛生環境研究所

環境省、全国環境研協議会および宮崎県の主催により第29回環境保全・公害防止研究発表会が、平成15年1月23日(木)、24(金)の両日にわたってウェルシティ宮崎で開催されました。

第1日目は主催者のあいさつに続いて基調講演およびパネルディスカッション、第2日目は一般発表が行われました。第1日目は会員(66機関)、行政機関、企業、NPO および一般から約450名、第2日目が約150名の延べ600名の参加があり、成功裡のうちに終了しました。2日間の日程は第29回環境保全・公害防止研究発表会日程表のとおりです。

第1日目は、主催者を代表して炭谷環境省総合環境政策局長(代理；徳田総合環境政策局環境研究技術室長)、全国環境研協議会の谷川会長および宮崎県知事(代読；金谷生活環境部長)からそれ

ぞれあいさつがありました。

炭谷局長はあいさつの中で、「今日の環境問題は非常に幅広く、かつ複雑化、多様化してきている。地球温暖化問題への対応については、我が国は昨年6月に京都議定書を締結し、地球温暖化対策をいっそう推進していく決意を世界に示したところである。循環型社会の形成については、循環型社会形成推進基本計画を半年前倒して、本年3月までに策定するとともに、リサイクルのいっそうの推進、不適正処理の防止等に向け廃棄物処理法の改正も含め検討を進めている。

このほかにも自然と共生する社会の実現、都市における大気汚染、化学物質による環境リスク対策、健全な水循環の確保、環境保全活動の活性化など取り組むべき課題は山積している。これらに



主催者を代表して炭谷環境省総合環境政策局長のあいさつを代読される徳田環境研究技術室長



主催者あいさつをされる谷川全国環境研協議会会長



開催県を代表して宮崎県知事のあいさつを代読する金谷生活環境部長

第29回環境保全・公害防止研究発表会日程表

会場：「ウエルシティ宮崎」（宮崎厚生年金会館）

平成15年 1月23日(木)	霧島・高千穂 ○開会(13:00~13:15) 開会のことば 宮崎県衛生環境研究所長 鈴木 泉 主催者あいさつ 環境省総合環境政策局長 炭谷 茂 全国環境研協議会会長 谷川 義夫 宮崎県知事 松形 祐堯 ○基調講演(13:20~14:20) 演 題 「ごみ問題から循環型社会のあり方を考える」 講 師 酒井 伸一(独立行政法人国立環境研究所循環型社会形成推進・廃棄物研究センター長) 座 長 谷川 義夫(全国環境研協議会会長 新潟県保健環境科学研究所長) ○パネルディスカッション(14:30~17:15) テーマ 「ごみ問題から物質循環のあり方を考える」 コーディネーター 浜田 康敬(独立行政法人国立環境研究所理事) パネラー 室石 泰弘(環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課長補佐) 土手 裕(宮崎大学工学部土木環境工学科助教) 赤星 たみこ(漫画家, エコロジスト) 垣迫 裕俊(北九州市環境局環境産業政策室長) 小手川 智彦(株沖環境テクノロジー 宮崎環境技術部長) コメンテーター 酒井 伸一 ○イブニングシンポジウム(17:45~19:45)					
1月24日(金)	研究発表会(9:00~12:30) <table border="1" data-bbox="267 971 1141 1306"> <thead> <tr> <th data-bbox="267 971 706 1016">第1会場(2階「霧島」)</th> <th data-bbox="706 971 1141 1016">第2会場(2階「高千穂」)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="267 1016 706 1306"> ○大気Ⅰ(9:00~9:56) 有害大気汚染物質(VOC) ○大気Ⅱ(9:56~10:38) 有害大気汚染物質 (重金属・大気汚染改善等) ○大気Ⅲ(10:38~11:34) 常時監視 ○大気Ⅳ(11:34~12:30) 計測・解析・影響評価 </td> <td data-bbox="706 1016 1141 1306"> ○水質Ⅰ(9:00~9:42) 海域調査 ○水質Ⅱ(9:42~10:24) 湖沼等調査 ○水質Ⅲ(10:24~11:20) 河川等調査 ○廃棄物(11:20~12:30) 廃棄物利用・調査・環境影響評価 </td> </tr> </tbody> </table> 休憩(12:30~13:20) 合同研究発表会(13:20~16:51) 大ホール(2階「霧島・高千穂」) ○地球環境問題(酸性雨・温暖化等・環境技術研修)(13:20~14:30) 休憩(14:30~14:45) ○ダイオキシン類等の調査(14:45~15:27) ○内分泌攪乱化学物質等の調査・分析法(15:27~16:51) ○閉 会(17:00~17:10) 大ホール(2階「霧島・高千穂」) 閉会あいさつ 環境省総合環境政策局環境研究技術室長 徳田 博保 徳島県保健環境センター所長 武田 喜美男		第1会場(2階「霧島」)	第2会場(2階「高千穂」)	○大気Ⅰ(9:00~9:56) 有害大気汚染物質(VOC) ○大気Ⅱ(9:56~10:38) 有害大気汚染物質 (重金属・大気汚染改善等) ○大気Ⅲ(10:38~11:34) 常時監視 ○大気Ⅳ(11:34~12:30) 計測・解析・影響評価	○水質Ⅰ(9:00~9:42) 海域調査 ○水質Ⅱ(9:42~10:24) 湖沼等調査 ○水質Ⅲ(10:24~11:20) 河川等調査 ○廃棄物(11:20~12:30) 廃棄物利用・調査・環境影響評価
第1会場(2階「霧島」)	第2会場(2階「高千穂」)					
○大気Ⅰ(9:00~9:56) 有害大気汚染物質(VOC) ○大気Ⅱ(9:56~10:38) 有害大気汚染物質 (重金属・大気汚染改善等) ○大気Ⅲ(10:38~11:34) 常時監視 ○大気Ⅳ(11:34~12:30) 計測・解析・影響評価	○水質Ⅰ(9:00~9:42) 海域調査 ○水質Ⅱ(9:42~10:24) 湖沼等調査 ○水質Ⅲ(10:24~11:20) 河川等調査 ○廃棄物(11:20~12:30) 廃棄物利用・調査・環境影響評価					

適切に対応していくためには、科学的基盤が重要であり、環境研究、環境技術開発のいっそうの充実、推進が重要な要素の一つとなると考えられる。

環境省としては平成15年度の政府予算案において312億円の開発技術関係予算を盛り込んだところであり、今後とも各種の調査研究について地方公共団体の環境研究所と連携を保ちながら着実に実施して参る所存である。

今回の研究発表会は循環型社会の形成に焦点を当てて行われるが、それが今後の循環型社会の形成に資する研究や技術開発のあり方およびその推進方策を考える一助になればと考えている」と、話されました(徳田室長代読)。

次に全国環境研協議会の谷川会長は、「環境問題の課題の多くは解決が難しく、また難しい環境問題が解決されず残されている。そして地域における特殊な環境課題、日々発生し研究所に持ち込まれる公害事案等その実態解明を行っていくことが地域住民から強く求められている。

地方試験研究機関はこのような社会の責務に対し地域のフィールドにおいて、その実態を科学的に解明する機関として、また地域の環境汚染の監視役として活躍することが求められている。

そのためには私どもは現状の技術レベル、研究レベルに甘んじることなく、研究能力の向上をめざした活動が引き続き必要であると考えている。

会員の皆様には、今後とも変わらぬご精進と研究機関どうし、技術者どうしの交流連携などを通じて積極的な研究活動をお願いしたい。

この研究発表会の開催が情報交換、交流連携の場として、さらには全国に張りめぐらされた環境研究の連携ネットワーク構築のために役立つことを期待する。

脱温暖化、循環型の持続可能な社会の構築が21世紀の施策目標として提示されているが、地方環境試験研究機関としても循環型社会の構築について、とくに廃棄物処理、それに伴う環境汚染問題等に関して的確に対応していくことは昨今の重要な課題となっている。

本日、各界からの有識者の考え方をお聞きし、私たち自身の生活の問題として捉えると同時に、地方試験研究機関としての今後の見識として活かしていきたい」

と、あいさつされました。

また、宮崎県の松形知事は、

「20世紀の社会経済システムは、地球温暖化やオゾン層の破壊など負の遺産とでもいうべき深刻な環境問題を残した。なかでも廃棄物の問題は、今私たち一人ひとりが真剣に取り組まなければならない緊急の課題となっている。

このような環境問題に対しては、一人ひとりが環境保全に向けた具体的な行動を起こすことにより、環境への負荷の少ない「環境共生型」の地域社会を構築していくことが重要である。

宮崎県においては県民、民間団体、事業者、行政がそれぞれの役割とパートナーシップの下に、「人と自然の共生する地域環境づくり」に向け、さまざまな施策を展開している。

また、一事業者・消費者としての県の立場から、ISO14001の認証を取得し、定期的に自己点検を行いながら、継続的に環境への負荷の低減に取り組んでいる。この発表会が実り多いものとなりますよう祈ります」

とのあいさつがありました(金谷部長代読)。

第2日目の発表は以下のとおりです。

1. 一般発表

第1会場：2階「霧島」

○大気Ⅰ(有害大気汚染物質：VOC) [9：00～9：56]

座長：花田 善文(北九州市環境科学研究所)

① 静岡県富士地域における大気環境中高濃度ベンゼンの負荷要因の検討

太田良 和弘(静岡県環境衛生科学研究所)

② 群馬県大気中ホルムアルデヒドに関する考察
田子 博(群馬県衛生環境研究所)

③ 八方尾根における揮発性有機物質の特性

原田 勉ほか(長野県衛生公害研究所)

④ 有害大気汚染物質連続測定データを用いた大気中濃度分布の特徴

星 純也ほか(東京都環境科学研究所)

○大気Ⅱ(有害大気汚染物質：重金属・大気汚染改善)

[9：56～10：38]

座長：多田納 力(鳥根県保健環境科学研究所)

⑤ 八戸市内における有害大気汚染物質(重金属類)の発生源の推定—平成12、13年度の調査結果から—

- 花石 竜治ほか(青森県環境保健センター)
- ⑥ 有害大気汚染物質モニタリング調査結果(重金属)について
旗本 尚樹ほか(新潟県保健環境科学研究所)
- ⑦ キョウチクトウによるトリクロロエチレンとテトラクロロエチレンの吸収
近藤 隆之ほか(富山県環境科学センター)

○大気Ⅲ(常時監視) [10:38~11:34]

座長:岩本 真二(福岡県保健環境研究所)

- ⑧ 大阪府における浮遊粒子状物質調査の結果について
中村 智ほか(大阪府環境情報センター)
- ⑨ 名古屋市域におけるNO₂濃度の漸増傾向と、それを誘導するO₃の影響について
大野 隆史ほか(名古屋環境科学研究所)
- ⑩ 岐阜県における光化学オキシダントの汚染状況
三原 利之ほか(岐阜県保健環境研究所)
- ⑪ 開発地域周辺における大気成分について
渡邊 進一(広島市衛生研究所)

○大気Ⅳ(計測・解析・影響評価) [11:34~12:30]

座長:星 純也(東京都環境科学研究所)

- ⑫ KIオキシダント計に対するNOの干渉
板野 泰之(大阪市立環境科学研究所)
- ⑬ 光化学オキシダントの濃度分布に関する解析
嶋崎 明宏ほか(福井県衛生環境研究センター)
- ⑭ 車載型NOx計による実走行時排出ガス計測とシャシダイナモメータ測定値との比較
田原 茂樹ほか(東京都環境科学研究所)
- ⑮ 視程解析による大気汚染状況の把握
多田納 力ほか(鳥根県保健環境科学研究所)

第2会場:2階「高千穂」

○水質Ⅰ(海域調査) [9:00~9:42]

座長:八並 誠(長崎県衛生公害研究所)

- ① 北海道の沿岸モニタリングと汚濁解明調査
齋藤 修ほか(北海道環境科学センター)
- ② 大阪湾富栄養化シュミレーションについて
山本 勝彦(大阪府環境情報センター)
- ③ 三河湾の過去25年の水質変化-内部生産の視点から-
丹羽 智子ほか(愛知県環境調査センター)

○水質Ⅱ(湖沼等調査) [9:42:~10:24]

座長:齋藤 修(北海道環境科学センター)

- ④ 浄化槽放流水の「BOD」
濱本 哲郎(福岡市保健環境研究所)
- ⑤ 東郷池における塩化物イオン濃度とCODについて
奥田 益算ほか(鳥取県衛生環境研究所)
- ⑥ 山中湖(平野地区)における水草の変遷
有泉 和紀ほか(山梨県衛生公害研究所)

○水質Ⅲ(河川等調査) [10:24~11:20]

座長:濱本 哲郎(福岡市保健環境研究所)

- ⑦ 中小都市河川の水質汚濁特性-赤川における泡の発生事例-
三上 一ほか(青森県環境保健センター)
- ⑧ 最上川水系における流域形態別河川特性について
神田 善弘ほか(山形県環境保全センター)
- ⑨ 沖縄県におけるAs検出地下水調査結果
嘉数 江美子ほか(沖縄県衛生環境研究所)
- ⑩ ASPT値及びDIによる五十鈴川の水質比較
関屋 幸一(宮崎県衛生環境研究所)

○廃棄物利用・調査・環境影響評価 [11:20~12:30]

座長:竹中 英之(福岡市保健環境研究所廃棄物試験研究センター)

- ① 排熱利用による食品廃棄物の飼料用乾燥装置の開発
前波 清隆ほか(静岡県環境衛生科学研究所)
- ② 住宅解体廃木材の有効利用をめざした手壊し解体工法について
宮崎 博文ほか(大分県衛生環境研究センター)
- ③ 産業廃棄物最終処分場(安定型)における硫化水素ガス発生事故に伴う調査について
力岡 有二ほか(長崎県衛生公害研究所)
- ④ 溶融スラグの土木資材利用時の環境影響評価
岡 正人ほか(岐阜県保健環境研究所)
- ⑤ 安定型最終処分場埋立物の種類組成調査
高橋 浩司ほか(福岡県保健環境研究所)

2. 合同発表**会場:2階「高千穂・霧島」**

○地球環境問題等(酸性雨等) [13:20~14:30]

座長:中村 智(大阪府環境情報センター)

- ① 愛媛県における酸性雨の状況について
津野田 隆敏ほか(愛媛県立衛生環境研究所)
- ② 大気CO₂濃度の上昇が外生菌根菌に感染した

- アカマツ実生苗の生長に及ぼす影響
三輪 誠ほか(埼玉県環境科学国際センター)
- ③ ヒートアイランド現象の解明に向けて—ヒートアイランド観測網の構築—
塩田 勉ほか(東京都環境科学研究所)
- ④ 衛星データを利用した新たな地下水監視体制について
津留 靖尚ほか(熊本市環境総合研究所)
- ⑥ 発展途上国を対象とした環境技術研修の問題点と対策
加藤 進ほか(三重県科学技術振興センター保健環境部)
- 微量化学物質(ダイオキシン類) [14: 45~15: 27]
座長: 松枝 隆彦(福岡県保健環境研究所)
- ⑥ 両生類生態系における有機塩素系化学物質の動態
門上 希和夫ほか(北九州市環境科学研究所)
- ⑦ 餌で与えたダイオキシン類(PCDDs, PCDFs)の魚体中濃度の経時変化
木下 誠ほか(福岡市保健環境研究所)
- ⑧ 北九州市における平成13年度の環境大気中のダイオキシン類濃度について
谷崎 定二ほか(北九州市環境科学研究所)
- 微量化学物質(内分泌かく乱化学物質等の調査・分析法) [15: 27~16: 51]
座長: 門上 希和夫(北九州市環境科学研究所)
- ⑨ 川崎市における大気中化学物質環境汚染実態調査(1994年度~2001年度)
菊地 美加ほか(川崎市公害研究所)
- ⑩ 琵琶湖底質における化学物質の濃度分布
内藤 幹滋ほか(滋賀県立衛生環境センター)
- ⑪ 飛鳥川の水質調査—アルキルフェノールとビスフェノールAについて—
中山 義博ほか(奈良県保健環境研究センター)
- ⑫ 神奈川県内のコイ血中のピテロジェニンについて
齋藤 和久ほか(神奈川県環境科学センター)
- ⑬ tert-ブチルフェノール類の分析法の検討
吉田 光方子ほか(兵庫県立健康環境科学研究所)
- ⑭ 河川水中のフタル酸エステル類分析における抽出法の検討
中川 和子ほか(京都市衛生公害研究所)